

第 11 回 新潟こころの発達医学セミナー開催報告書



はじめに

新潟大学「こころの発達医学センター」は、こころの発達についての研究を進めているとともに、その啓発活動や発達医学領域の人材育成に努めています。その一環として、一般の方々、学生、研修医、医療・教育・福祉関係者を対象に、「新潟こころの発達医学セミナー」の第 11 回目を 2018 年 7 月 21 日に、旭町キャンパス第 3 講義室にて開催しました。会場には多くの聴講者が集まり、この分野に対する社会的関心の高さが伺えました。

参加者内訳	(人)
医療関係者	32
教育関係者	91
福祉関係者	51
学生	4
一般	19
計	197

セミナーの様子



本セミナーでは当事者と支援者のトークセッション「障害への気付き、受容、望まれる支援について」を新潟大学大学院医歯学総合研究科特任准教授の江川純先生を座長として行い、続いて特別講演を同精神医学分野教授の染矢俊幸先生を座長に浜松医科大学子どもこころの発達研究センター特任教授の土屋賢治先生を講師としてお招きして行いました。また、新潟大学大学院医歯学総合研究科神経生理学分野教授の長谷川功先生、新潟大学医学部小児科学教室特任教授兼長岡赤十字病院小児科部長の田中篤先生にそれぞれ開会および閉会のあいさつを頂きました。

当事者と支援者のトークセッション 「障害への気づき、受容、望まれる支援について」

当事者：古田島さん

支援者：恩田佳奈子 相談員(障がい者支援センター さんわ 相談支援専門員)

北沢美奈 相談員(障がい者支援センター さんわ 相談支援員)

杉本篤言 先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 特任講師)



当事者の古田島さんは発達障害に気づいたきっかけ、辛かった時期、障がい受容に至る過程、どのようなサポートが必要かなど当事者ならではの困り感を話してください、なかなか聞くことのできない貴重な生の声を聞かせていただきました。それに基づいて医療側・福祉側からの支援方法などについて意見を交換し、他職種連携による障害サポートの重要性を改めて知ることができました。

特別講演

「自閉スペクトラム症の早期発見～分かっていること、分かっていないこと～」

土屋賢治先生

(浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター 特任教授)



土屋先生は自閉スペクトラム症の診断について解説からその早期発見の重要性、自らの経験に基づく早期発見の手法、浜松で実施しているコホート研究を始めとするさらなる早期発見につながるための研究について大変丁寧に解説いただきました。一般の方から専門職まで様々な人たちに、今後の支援や療育に活かせるような気付きを与えてくれる内容でとても勉強になりました。

おわりに

以上、第 11 回セミナーの様子を簡単にご報告させていただきました。
今後も定期的にセミナーを開催し、子どものころに関する最新の知見や
新潟大学精神医学教室の研究内容などを皆様にお伝えし、
意見情報交換などを行える場として、
地域に根差した活動を行っていきたいと思っております。

主催

新潟こころの発達医学研究会

協賛

グラクソ・スミス・クライン株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、アステラス製薬株式会社、
日本イーライリリー株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社、吉富薬品株式会社、
株式会社ツムラ、協和薬品工業株式会社、大塚製薬株式会社、
大日本住友製薬株式会社、MSD 株式会社
(敬称略・順不同)